

東京都調布市 (株)にっかつ撮影所



1. 火災の特色

映画スタジオで撮影中に出火したもので鉄筋コンクリート造2階建てのスタジオ約2,778㎡のうち1,371㎡を焼損した。この火災で逃げ遅れた照明係が一酸化炭素中毒で死亡したほか、撮影中の俳優ら26名が負傷した。

2. 出火日時等

(1) 出火日時

平成元年2月10日(金)15時04分頃

(2) 覚知時間

平成元年2月10日(金)15時06分

(3) 鎮火時間

平成元年2月11日(土)1時33分

3. 火元の概要

(1) 所在地

東京都調布市染地2-8-12

(2) 火元建物等の名称

(株)にっかつ 撮影所

(3) 火元建物の構造等

① 建築年月日

昭和29年7月

② 建物用途

撮影所（12項口）

③ 構造

鉄筋コンクリート造（耐火構造）2階建

④ 面積

建築面積：2146.0㎡

延べ面積：2778.0㎡

⑤ 出火時の在館者等

第5スタジオ内にタレント、カメラマンが撮影のため、45人在館していた。

⑥ 建築物階層別用途及び面積

階	面積	用途
2	632㎡	倉庫
1	2,146㎡	スタジオ・事務室
計	2,778㎡	

(4) 消防用設備等の設置状況

① 消火設備

消火器、屋内消火栓設備

② 警報設備

自動火災報知設備

③ 避難設備

誘導等

④ 消火活動上必要な施設

なし

(5) 防火管理の状況

① 防火管理者

昭和48年2月8日選任

② 消防計画

昭和48年2月8日届出（一部変更に係る届出は、昭和63年12月19日）

③ 避難訓練の実施状況

毎年2回以上の訓練を行っていた。

4. 気象状況

(1) 天候

雨

(2) 風位、風速

風位：北、風速：4.2m/s

(3) 気温、湿度

気温：4.7℃、湿度：88.0%

(4) 気象注意報等

なし

5. 出火原因

(1) 発火源

火薬

(2) 経過

撮影中、ウレタンとベニヤ板で作った工作物に発煙装置を接続したため。

(3) 着火物

ウレタン、ベニヤ板

6. 損害状況

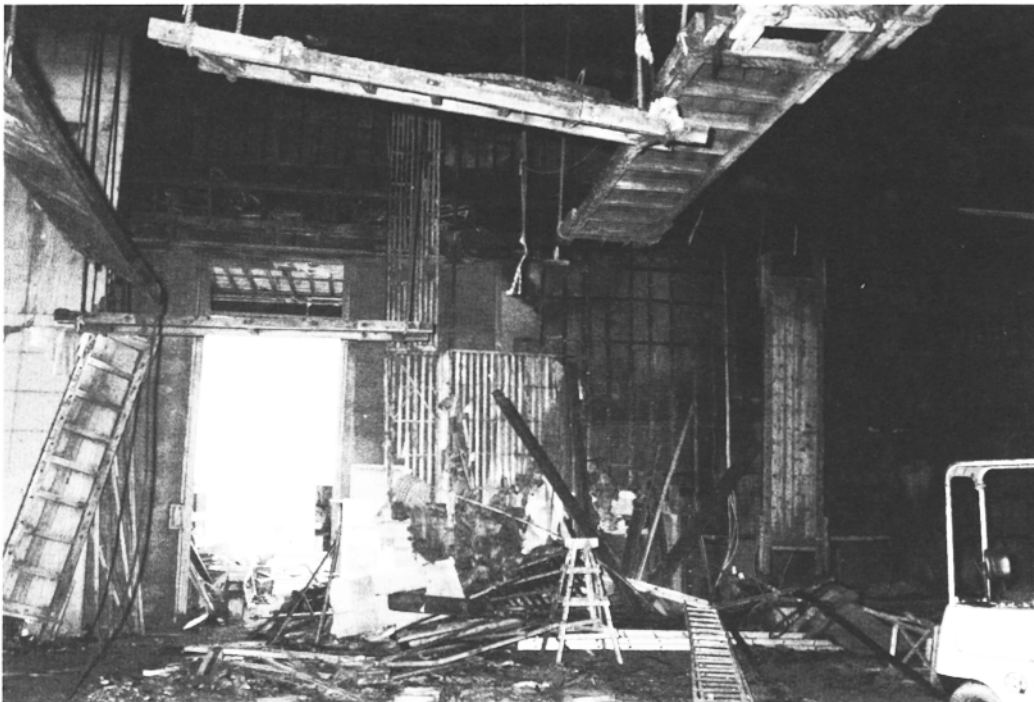
(1) 人的被害状況

① 死者

1名（男26才）

② 負傷者

7名（中等傷）、19名（軽傷）



(2) 物的損害状況

① 火元建物

- ア 焼損程度 部分焼
- イ 焼損面積 721㎡
- ウ 損害額 115,344千円

② 類焼建物

なし

7. 火災の経過

(1) 出火場所の状況

第5スタジオ内ではカメラマン、タレント等約45名が撮影中であった。

(2) 出火に至るまでの状況

ウレタンとベニヤ板で作った竜の鼻の模型（高さ約5m）の一部に発煙装置と接続して煙が出てくる所を撮影中、突然鼻の穴から火が吹き出した。

(3) 火災発見の経緯

出火場所付近に多数の関係者がいたため、出火と同時に回りに周知している。

(4) 消防機関への通報状況

出火後、比較的速やかに関係者により行われている。

(5) 初期消火の状況

模型から煙が出ているのを見つけたスタッフが消火器で消火を試みたが、火が急速にセットに延焼したため、避難するのが精一杯で屋内消火栓設備は使用していない。

(6) 火災拡大の状況

スタジオ内には、撮影用の道具等可燃物が多数置かれており、それらに急速に延焼し、拡大した。

(7) 避難の状況

スタジオからの出入口は2ヶ所あったがいずれも二重になっているため開けるのに手間取り、煙が充満し逃げ惑う人が将棋倒しになり、パニック状態となった。

(8) 自衛消防隊の活動状況

危険がひっ迫しパニック状態となり、組織的な活動ができる状況ではなかった。

(9) 死者の状況

第5スタジオ北側倉庫から約3mのところで倒れていた男を救出し、救助隊が病院へ搬送したが一酸化炭素中毒のため死亡した。

8. 消防機関の活動状況

(1) 出動隊等

① 出動車両

常備 82台、非常備 8台

② 出動人員

常備 335名、非常備 129名

(2) 消防機関の消火、救助活動の状況

ア 出火当時、スタジオ内には製作スタッフ45名がおり、撮影に従事していた。

現場に最先到着した国領中隊は、逃げ遅れ多数の情報を得て直ちにスタジオ東側から進入し、検索救助を実施したが、濃煙、熱気に加え、上方からの落下危険があり、内部の奥深くへ進入しての検索が不可能であった。

第2到着の調布中隊は逃げ遅れ数名の情報を得て、スタジオ北側から進入、検索及び火勢制圧のための放水を実施し、要救助1名を発見、救助した。

イ 現場到着時は、濃煙、熱気に加え、上方からの落下危険があり、内部の奥深くへ進入しての消火が不可能であったことから、放水銃を活用するとともに、無人放水車(レインボー5)を要請して使用、各隊の放水を得て消火した。

9. 問題点

- (1) 内部に撮影用の可燃物が多量に置かれており、急速に燃え拡がり避難及び消火活動の障害になった。
- (2) 撮影所の扉が二重であり避難に支障をきたした。
- (3) 火災時は撮影中で、当日もタレント3名がピアノ線で宙吊り状態である特殊な状況下であったものの、スタッフの適切な行動により本火災では大事に至らなかったが、今後、特に特殊撮影をするスタジオでは同様のケースが考えられる。
- (4) スタジオ内での火薬等の火気使用は、都条例により許可が要るが、時間がかかるという理由で提出されていない。また、薬品等の管理が徹底されていなかった。

